

新宿連絡会 News

新宿連絡会（新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議）発行

連絡先：東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付

☎03 (3876) 7073/030 (818) 3450

vol.3 1998年2月28日

2/7西口地下広場火災 2/14自主退去

ここで生きてきた。だからこれからも生きる。

すでに皆さんご存じのように2月7日未明、新宿西口地下広場インフォメーションセンター周辺で火災が発生し、ダンボールハウス約50軒が延焼しました。この火災により、4人の方（女性1人、男性3人）が亡くなりました。（後日、入院先の病院で亡くなった男性を含む）

新宿連絡会はこの大惨事を受け、「被災した仲間の命を守る」ことを最優先に行動しました。火災発生当日から行政に対して「被災者対策」を求めた結果、臨時越冬施設「なぎさ寮」の使っていない棟を開けさせることをかちとり、7日から10日の間、焼け出された98人が「なぎさ寮」に緊急入寮しました。しかし、焼け残った約100軒のダンボールハウスの住人からも「もうここには怖くていられない」という声が出たことを受けとめ、また客観的な情勢の中での「仲間の利益」を考慮した上で、

新宿連絡会は「自主退去」という「最後のカード」を手にして行政との折衝に臨みました。

その結果、東京都・新宿区と4月からの区内複数箇所の「自立支援センター」設置に合意し、2月14日正午をもって西口地下広場を自主退去するという決断を行なったのです。

13、14日には都区による街頭相談が行なわれ、新たに74人が「なぎさ寮」に入寮しました。先に入った人とあわせ約170人が4月から新宿区内にできる「自立支援センター」に入所できることとなります。一方、入寮を希望しなかった約30人は近くの公園などに移転しました。

新宿連絡会は、亡くなった4人の仲間の無念に応えるためにも、生き残った我々が生き抜く闘いを続けていかなければ、と考えています。以下に火災と自主撤収に関する2本の声明を掲載します。

* 火災翌日の声明 *

昨日2月7日早朝5時すぎ、新宿駅西口地下広場のインフォメーションセンター周辺で火災が発生し、約670平方メートルにわたって延焼した。猛火はダンボールハウス40軒以上を全焼させたばかりでなく、ハウスの住人3名（男性2名、女性1名）の生命をも奪った。また他に2名が全身やけどなどの重傷を負い、救急で入院している。

新宿野宿労働者の当事者団体である我々は、3名の仲間の命を奪った今回の惨事を目のあたりにして、持つべき言葉を失っている。今はただ3名の仲間のご冥福を祈るだけである。

出火原因については様々な憶測が乱れ飛んでいるが正確なことはわからない。噂を根拠にした「警察情報」には政治的な意図すら感じられる。噂に基づいて出火原因を云々するよりも我々には行政や世間の人々に考えていただきたいことがある。

すなわちそれは、①なぜこれだけ多くの人々がダンボールハウスという劣悪な居住環境のもとで暮らさざるをえないのか？ ②なぜ火災の延焼があんなに速いスピードで進んだのか？ ダンボールハウスが狭い地域で過密にひしめく状況を作り出したのは誰なのか？、という二点である。

第一の問いに対しては様々な答えが考えられるが、ここでは過去最悪の完全失業率を記録し続ける近年の経済不況と、失業し、住みかを失った人々に対する行政の無策を指摘するにとどめる。第二の問いに対しては、ガードマンを使ったり、「動く歩道」やオブジェやプランターなどを設置して野宿できる場所を次々と奪い、居住地を狭めていったのは誰か、ということを考えればすむだろう。我々はこうした現状が悲劇を引き起こしたという現実について声を大にして訴えたい。今回の悲劇は貴方たちの暮らすこの国で、1998年に起こった出来事なのである。

そして7日午後、インフォメーションセンターの周辺一帯、約2000平方メートルに及ぶ広大な地域が高さ2メートルのフェンスで封鎖された。目的は「復旧工事のため」というが、火災のあった南側や東側だけでなく、火事に関係のない北側や西側までもフェンスが張り巡らされたのである。このため火災の被害を全く受けなかったダンボールハウス約30軒が立ち入りできない状態になってしまい、普段、我々が炊き出しや越年期の仮シェルターなど様々な活動で使用していたインフォメーションセンター前（北側）の広場も全面封鎖されてしまった。この措置は野宿者を治安管理的対象としてしか見ない警察権力の主導で行なわれており、火災にか

こつけた排除行為としか言いようがない。北側や西側の封鎖は「資材置き場」のためと言われているが、工事面積よりはるかに広い「資材置き場」を必要とする工事とは、一体、何のための工事なのであろうか。

火災とそれに追い討ちをかけるフェンス設置によって、一帯のダンボールハウスの数は半減してしまい、野宿できる場所はさらに限られることになってしまった。フェンスの全面設置により西口地下広場を通行する人も不便を強いられることになったが、警察サイドの動きは通行人の不満が残されたダンボールハウスの住人に向かうことを意図しているかのようである。人の不幸につけこみ、混乱に乗ずる形で排除を行ない、卑劣な手段で問題の「最終決着」をつけようとする動きを我々は絶対に許しはしない。強権や暴力はさらに多くの仲間が無念の死を強要するだけであり、我々は警察や行政に対して一昨年1・24強制排除の愚挙を繰り返さないよう強く警告する。

我々の目的は西口地下広場に居座ることではない。我々は一貫して仮設住居と軽作業労働の保障を行政に求めており、野宿の仲間が安心して暮らせる居住地と安心して就労できる仕事さえあれば、喜んで移住するであろう。昨年10月より始まった東京都による「自立支援事業」に対しても我々は都福祉局との話し合いを

通して事業に協力し、事業のさらなる改善を求めてきた。今回、週末にもかかわらず都福祉局が中心となって、焼き出された人たちのために越冬施設「なぎさ寮」の緊急入寮の手続きを行なったが（7日9人、8日23人が入寮）、こうした状況に即した施策の運用は、当事者との直接対話を通して初めて生まれてくるものであろう。我々は西口地下広場の今後、行政による「路上生活者対策」の今後に関して東京都との話し合いを通して問題を解決していきたいと考えている。

残された者にできることは亡くなった仲間の分まで生きていくことしかない。深い悲しみを胸に抱えながらも我々にできることは「生き抜くための条件をこの手につかむ」という我々の「闘い」を進めていくことしかない。是非、心ある多くの方々に、より一層の暖かいご支援とご協力をお願いしたい。

1998年2月8日
新宿連絡会

*この声明を出した後、行政側との合意が成立し、2月14日の自主退去が決定した。新宿連絡会にとっては「苦渋の決断」であったが、「新宿の仲間は前へ出る時はみんなが出る。引く時はみんなで行く」との仲間の言葉どおり、撤収は整然と行なわれた。

* 自主退去に際しての声明 *

我々新宿連絡会は1998年2月14日正午をもって新宿駅西口地下広場から自主退去する。

残されたダンボールハウスは自主退去に応じた各人がその所有権を放棄したものとみなし連絡会事務局員一名の立ち会いのもと、代表してその占有権を解き、道路管理者に明け渡す。

今回の自主退去決定は、7日早朝、5名もの死傷者を発生させた西口地下広場インフォメーションセンター周辺での火災事故を受け、即座に東京都、新宿区などとの協議を行なった結果、直接の被災者救援、また今後の安全性が保障されない西口地下広場に起居する野宿者救援のため、我々が納得し得る緊急施策が実現されることが確約されたことへの、我々の自主的判断での決定である。

冬期臨時宿泊施設なきさ寮への緊急入寮から4月以降の自立支援センターへとつなげていく支援は、かつての短期宿泊のみの援護ではなく、自立までの間長期にわたり援護を行なうもので、今後の課題は多いものの現行の「路上生活者対策」の枠内では考えられる最良のものであり、今回の火災事故における緊急施策を、このような我々が最低限納得しうる人道的な施策にして頂いた東京都また新宿区およびその他の関係者に我々は新宿駅西口地下広場の野宿者を代表し、まず感謝の意をのべる。

我々は我々の仲間の自助を軸としたつながりを大事にし、この支援を積極的に受け、事業内容の改善、とりわけ就労支援への行政努力を更にうながしながら、一人でも多

くの仲間が自立されんことを切に願う。これが、今回不幸にも亡くなった3名への我々のせめてもの償いでもある。

我々新宿連絡会は、今回の事態を受け、多くの仲間が移行するであろう自立支援センター事業への積極的なかわりを開始していくと同時に、未だ野宿を強いられている新宿区内の野宿者への生活・就労保障を求めるたたかい、炊き出し、福祉申請、各種相談活動などの日常的な取り組みを従前通り行なう。拠点闘争としてではなく、機動力を生かしながらの取り組みとなるだろうが、我々が培っていた新宿野宿労働者の能動性と団結は決して拠点を失うことぐらいでは消え失せない。新宿の地に野宿の仲間がいる限り、新宿連絡会はその存在理由を失うことはない。路上の仲間と共に、そして路上から脱した仲間と共に、底辺下層労働者の諸権利を勝ち取るたたかいを継続することを新たな出発の日、ここに宣言する。

1998年2月14日
新宿連絡会

*この声明のとおり、新宿連絡会は、炊き出し（中央公園に場所を移す）、パトロール、福祉行動など従前の活動を続けるとともに、「なきさ寮」など施設に入った仲間との面会・交流行動も強化しています。すでに寮の仲間が参加しての行政交渉など寮の中と外を貫く共同行動も取り組まれています。今後とも新宿の取り組みに対するより一層のご支援をお願いいたします。

カンパ送り先：郵便振替口座
00170-1-723682「新宿連絡会」

*今回の事態に関しては現在、「新宿ダンボール村通信」別冊として詳しい報告集を作成中です。ここではとりあえずの報告とさせていただきます。